



令和元年7月29日

8月2日（金）14時 プレオープン（マスコミ向け内覧会）の案内

企画展示「原爆投下の広島で実相究明に取り組む科学者たちの軌跡」
のご案内（秀敬氏ノートおよび被爆岩石標本「里帰り」展示）

今夏、下記の通り、広島大学文書館、広島大学医学部および原爆放射線医科学研究所（原医研）の所蔵資料をもとに、原爆投下の広島で実相究明に取り組む広島大学医学部および原医研の医学者たちが取り組んだ始動期の軌跡・活動の一端をご紹介します。

また、このたびは、特別展示として広島大学文書館を始めとする関係各所のご協力を賜りまして、広島大学地質学教室での取り組みを示す秀敬氏（当時大学院生／広島大学名誉教授）の調査ノートおよび被爆岩石標本を皆様にお披露目いたします。通常は西条（東広島キャンパス）にあります資料の、いわば「お里帰り」です。

是非皆様のご来場を賜れば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、何かございましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

記

1. タイトル “原爆投下の広島で実相究明に取り組む科学者たちの軌跡”
—広島大学医学部および原爆放射線医科学研究所での様相—

【特別展示】 秀敬氏調査ノートおよび被爆岩石標本

2. 場所 広島大学医学部医学資料館（広島市南区）

3. 期間 2019年8月5日（月）～9月20日（金）

※ 8月2日（金）14時～プレオープン（マスコミ向け内覧会）

【内 容】

挨拶 吉永 信治（原医研附属被ばく資料調査解析部長・教授）

概要説明 久保田明子（原医研附属被ばく資料調査解析部助教）

質疑応答

4. 協力 広島大学医学部 広島大学文書館 広島大学総合博物館

5. 共催 広島大学原爆放射線医科学研究所 広島大学医学部
放射線災害・医科学研究拠点（広島大学・長崎大学・福島県立医科大学）

6. 企画趣旨

原子爆弾の影響は爆弾が投下されてすぐ終わりとならなかった。ある意味、被爆地では1945年8月のその日から原爆にまつわるさまざまなことが始まり、そして75年目をまもなく迎える今でも終わってはいない。1945年8月に日本は確かに戦争を終えた訳だが、被爆地では、この戦争終結による解放の安心や喜びという幸運や空気が、他の地域ほどに人々にもたらされたとも限らなかった。被爆地の人びとは、この、敗戦し、占領された国のなかで、新たな戦い“ヒロシマ”への挑戦が始まることになったのである。

しかし、被爆地の人びとは実に不屈に生き抜いた。そこには、被災し、被爆した本人たちの底力がまずあった。そして彼らを支え、また、その大元（おおもと）となった原子爆弾の影響そのものを調査研究する人々も多くいた。

広島大学医学部は、そういったものの1つであった。医学部の源流となる広島県立医学専門学校は、1945年8月5日に開校式を行い、そのスタートを切ったため、実態としてはむしろ被災した側でもあった。しかし、そこから被爆者医療に尽力すべく調査研究も進めていった。また、その流れのなかで、広島大学には1958年に原爆放射線医科学研究所の基盤となった研究組織が設立された。

本展示は、広島大学のそういった初期の活動を中心に、当時の様子的一面をお伝えすることを目的としている。

* 特別展示について：秀敬氏調査資料

被爆地・広島には、アメリカや日本（文部省、学術研究会議）の調査団がやってきて、そして調査が済むと彼らは帰っていった。その調査団を受け入れ、また広島その現場に居続けて被爆者とともに歩んだのが、広島の科学者であり、その一部に広島大学があった。広島平和記念資料館の創立者として著名な長岡省吾は、広島大学の間人として原子野を歩き研究のために被爆石を収集したが、青年であった秀敬氏は、そのそばで同じく調査研究に従事していた。今回はその際の貴重な、そして大変に緻密に書き込まれたノートおよび関連資料を皆様にご覧いただく。

【お問い合わせ先】

広島大学原爆放射線医科学研究所
附属被ばく資料調査解析部
TEL 082-257-5877
(担当教員：久保田明子)

発信枚数：A4版 4枚（本票含む）

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学財務・総務室広報部 広報グループ 行

8月2日(金) 14時 プレオープン(マスコミ向け内覧会)の案内

企画展示「原爆投下の広島で実相究明に取り組む科学者たちの軌跡」
のご案内(秀敬氏ノートおよび被爆岩石標本「里帰り」展示)

日時：2019年8月2日(金) 14:00~15:00

場所：広島大学医学部医学資料館(広島大学霞キャンパス)

ご出席

ご欠席

貴社名 _____

部署名 _____

ご芳名 _____ (計 名)

電話番号 _____

誠に恐れ入りますが、上記にご記入頂き、8月1日(木) 12:00まで
にご連絡願います。



原爆投下の広島で 実相究明に取り組む 科学者たちの軌跡

ヒロシマに挑む^{いど}

—広島大学医学部および原爆放射線医科学研究所での様相—



<特別展示> 秀敬^{ひで けい}氏調査ノート

1945年10月より広島文理科大学（現・広島大学）の地質学鉱物学教室の研究者たちが広島の被爆地に入って調査を行ったが、そのとき大学院生の1人として同行したのが秀敬氏（のち広島大学名誉教授）であった。彼らの調査研究は原爆の放射線の線量推定を検討するのに不可欠であった。今回、医学だけではなく広島大学のヒロシマへ挑む姿の1つとして、この秀氏の調査ノートをご紹介します。

2019年 **8/5** 月 ~ **9/20** 金

広島大学医学部医学資料館

10 : 00 ~ 16 : 00 (土曜日・日曜日・祝日・夏季休暇日閉館) 広島大学霞キャンパス (大学病院前)

協力 広島大学医学部 広島大学文書館 広島大学総合博物館

共催 広島大学原爆放射線医科学研究所 広島大学医学部

放射線災害・医科学研究拠点 (広島大学・長崎大学・福島県立医科大学)

企画・製作

広島大学原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部